

平成29年12月1日 第56号

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市大和町栄1078-3
発行人 武末十治男
編集責任者 金子俊彦



火 「頒ち合う喜び」

「ママこれおいしいよ」

坊やが、一口食べたお菓子差し出した。

埋 「そう、よかったわね。ママはいいから、

みんな食べたら」「ママも食べてごらんよ」

「ママも食べてごらんよ」

ママは半分にして、口にされる。

「おいしいでしょう」

「おいしいわ」

「よかった」

坊やは、ひとりで全部を食べるよりも、半分になっても、ママと喜び合って食べた方がたのしいのである。

幼児期は、自己中心の時期というが、可愛がられて育てられた子供には、こういう行動がみられる。ただ、空腹かどうか、食欲があかどうか、相手のことを忖度することはなかなかできない。

半分になっても、みんなと一緒に食べる喜びを持てるような人に育てたかったら、ママは多少の無理をしても、

「おいしいわね」と、坊やと頒ち合うよう努めるべきだ。もし拒絶したら、せっかくの美しい芽をつまんでしまうことになるかもしれない。

「頒ち合う喜び」を持つ人が少しでも多くなったら、さぞ楽しい世の中になることだろう。

一般的考え方（武末十治男）

※お互いに

「頒ち合える友を一人でも多く作り楽しい余生を送りたおものです。」